



はじめの一步

事例集

点を線に。

はじめに

「応援者」から「支援者」へ

認知症サポーターの、地域住民の認知症への理解を広げる「応援者」としての役割はとても大きなものです。しかし、認知症800万人時代を迎える現在においては、遠巻きの応援だけではすでに追いつかず、もっと現実的な自分自身の事として、または自分の家族の事として具体的に地域で活動をしていかなければならない時期に来ているのかもしれない。

「認とも」という言葉はまだなじみの浅い言葉です。

この事例集で紹介する7つの事例は、いずれも「認とも」という名称は使用していませんが、取り組まれている内容は、「認知症カフェを拠点とした居宅訪問活動」であり「認とも」です。まだ、はじめたばかりの事例や、すでに訪問活動を体系的に行っている事例など様々ですが、いずれの事例も、地域住民の「もっと何かしたい」「具体的な支援方法を学びたい」という“声”や“思い”から始まっています。

大切なことは、その“声”や“思い”を聞く、専門職の姿勢であり、それを実現するアイデアでした。

事例集では、背景や経緯から、他の地域で実践するための「ワンポイントアドバイス」まで紹介しております。ここで、紹介した先駆的な事例が他の地域に波紋のように広がっていき、認知症カフェがより有機的に活用され、多くの認知症の人、そして家族に届くことを切に願っております。

平成29年3月

認知症介護研究・研修仙台センター

本冊子に掲載されている内容については、認知症介護研究・研修仙台センターがヒアリング調査を行い同意を得て独自に編集を行ったものです。平成28年度ヒアリング調査実施時点の現状であり、現在とは異なる部分がございます。

目次

Case1

地域住民とつくる認知症カフェと「地域支え合いメイト」の育成
新潟県新発田市

Case2

重層的な見守りネットワークによるきめ細かな地域づくりと声かけ活動
東京都北区

Case3

キャラバン・メイトである住民の声に耳を傾け、
それを実現した居宅訪問活動
岡山県真庭市

Case4

多職種、住民協働のオレンジボランティアによる居宅訪問活動の実践
広島県東広島市

Case5

ボランティア団体と社会福祉法人のネットワークによる
ゆるやかな見守り活動
熊本県荒尾市

Case6

傾聴ボランティアがつくる認知症カフェと居宅訪問活動
熊本県錦町

Case7

認知症の人や家族の「応援者」から「支援者」へ
認知症サポートリーダーの育成と活用
長崎県長崎市
